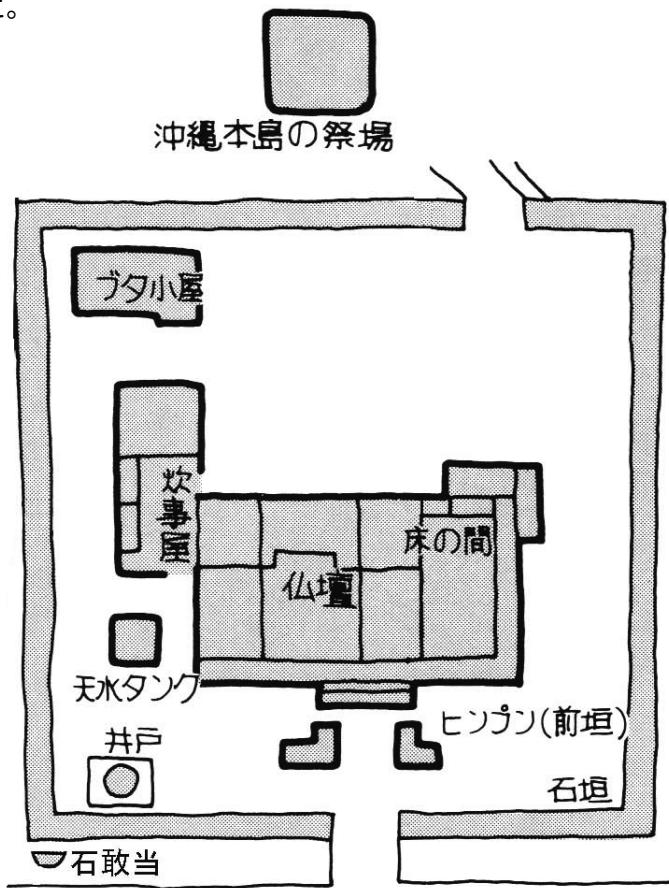


おきなわけん いしがきじま
沖縄県 石垣島の家

おきなわほんとう なんせいしょとう あねったい
沖縄本島よりもさらに南にある南西諸島は、亜熱帯の島じまから
なります。そのひとつである石垣島に、今から 140 年ほど前の
1871 年ごろ、琉球国時代の士族の住まいとして建てられた家を
いぢく 移築しました。



沖縄県 沖縄本島の祭場

さいじょう
アサギと呼ばれる そんらくきょうどう きゅううれき ほうさく はんえい
村落共同 の祭場。毎年 旧暦 の 7 月には 豊作や繁栄
かいじんさい もよお
をもたらすニレー神を迎える海人祭が、女性たちだけで 催されます。

きこう 気候と住まい：台風とともに暮らす

毎年 7 月から 10 月までに何度も台風におそわれる石垣島の家には、いくつかの工夫がこらされています。その暴風対策の工夫を紹介します。

① 豊富に採れるサンゴ石で石垣を高く積みあげる。
風が直接、家に吹きつけないようにという工夫です。



② 庭に防風林を植える。
同じく、家に吹きつける風を少しでも弱めるための工夫です。

③ 屋根瓦をしっくいで固める。

屋根が風で吹き飛ばされないように“重し”的役目をもつ屋根瓦、この石垣島の家では平瓦(1枚 1.3kg)と丸瓦(1枚 1.9kg)を組み合わせ、およそ1万7千枚、25tもの瓦を使っています。さらに、瓦をしっくいで塗り固めて、おさえています。

④ 母屋の柱をふやし、軒を低くする。

「石垣島の家」と「山形 月山山麓の家」とはおおよそ同じ面積ですが、石垣島の家の柱は102本、山形の家柱は74本とかなり違います。柱の数が多いのは、重い屋根をしっかりと支えるためです。軒下の高さは石垣島の家が270cmで、山形の家は430cmもあります。軒が低いことで、風は家の壁ではなく屋根の上を吹き飛んでいきます。

台風による被害を抑えるために、石垣島の人たちはいろいろな工夫をしてきましたが、まったく台風が来なくても、石垣島の人たちは困ってしまいます。この家の元の持ち主は、「井戸水は塩分があって飲めないからね」と言い、1953年に水道が引かれるまで、屋根にふった雨水を天水タンクにためて飲料水に用いていた苦労を語ってくれました。台風は大量の真水をもたらしてくれる天からの恵みでもあるのです。